

# 『らくらくノート』で、 ノート作りの力を育てる

■ 愛知県豊橋市の先生

## ① ノートをとる力

「子どもはノートをとるのが苦手である」。私は、これまでの経験から、こう断言してもいいように思っています。例えば、

- 隅っこから詰めて書き、まとまりができると線で囲むという作業をくり返し、できあがったノートが、パズルのピースで埋まったかのようにになっている子
- マスや罫線を見せずに書き、字の大きさもまちまちになってしまう子
- やたらとけちって文字を小さく詰めて書くために、どこに何が書かれているかわからなくなっている子
- 字がきれいでていねいに書かれているにもかかわらず、カラーペンを駆使しすぎて大事なポイントが逆に目立たなくなっている子

といった具合です。初めから子どもを悪く言い過ぎて気が引けますが、「そうそう、その通り」と頷く教師も多いのではないのでしょうか。

ただし、これは「何も指導をしなければ」の話です。日々根気よく指導を続ければ、大抵の子どもはきちんとノートがとれるようになっていきます。高学年ともなれば、自分なりに書き方の工夫を加え、内容も充実してくるものです。

このことは、ノート指導において適切な指導をすることがいかに大切かを示しています。放っておいても、とにかくやらせておけば自然にできるようになる類いのものではないのです。

整理整頓されていない「汚部屋」で暮らすと、知らず知らずのうちにストレスが溜まり、老化にも少なからず影響があると聞きます。ノートも然りです。すっきりと見やすくまとめられたノートなら、学習内容も頭にしっかり入ってくるでしょう。成果があるから学ぶ意欲も高まります。

内容理解が深まるだけではありません。ノートの広い誌面のどこに、何をどのように書くか。これがわかれば、見通しを持って学習が進められます。大事なことは何かを選択できるのです。全体を見通せる力がつくのです。数年前に東大生のノートを取材・分析した書籍が話題になりましたが、これもノートをとる力が学力と大きく結びついていることを証明していると言えるでしょう（ノートをとる力そのものも学力といったほうが適切かもしれません）。

昨年度、久しぶりに低学年（2年生）を受け持つことになり、偶然『らくらくノート』の存在を知りました。「これはいいんじゃないかな」という予感も、学年末には確信に変わりました。本年度も2年生の担任となり、迷わず再度採用。以下に、その取り組みの様子を紹介したいと思います。

## ②『らくらくノート』の効果

算数のノート作りで最も大切にしたいのは「余白を多くとる」ことです。とかくノートのマスを詰めてしまいがちな子どもたちにとって、『らくらくノート』には、次のような利点があります。

### ①問題番号があらかじめ書かれている。

→そのまま書いていけば、行間を空けて書くことのよさを実感できる。

### ②初めの問題はなぞり書きになっている。

→方眼の使い方をつかみやすい。

### ③余白が多い。

→間違い直しをさせたり、支援の言葉を書き込んだりできる。

### ④ドリルに対応している。

→計算、筆算、文章題、図形などの様々な問題に対し、それぞれに合う書き方を学ぶことができる。

### ⑤表紙裏に書き方のポイントやノート例などが載っている。

→授業ノートにも応用できる。



『らくらくノート』なら、①～⑤に挙げた点を、時間をかけずにどの子にも指導できます。また、指導者側の経験も問いません。教職について間もない若手教員も同じように指導をすることができます。

これまで、⑤のような書き方例は手作りで作成し、子どものノートに貼っていました。しかし、「まねて書く」ことが難しい子どもは、それを見ただけでは活用できず、何度も個別指導が必要になっていました。『らくらくノート』は、問題番号やなぞり書きがガイド役となるので、どの子もすんなりと取り組みます。

今までの苦労は、一体何だったのでしょうか。初めは値段を見てしばし採用を躊躇しましたが、それだけの価値はあると思います。

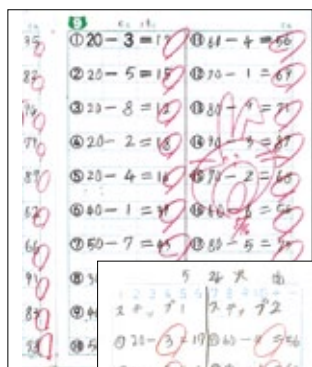
ただ、これだけではそのまま書き写しているだけなので、本当に書き方が身についたとは言えません。そこで、もう一冊別のノートを用意し、次のような手順で使用しています。

## ③くり返すことの大切さ

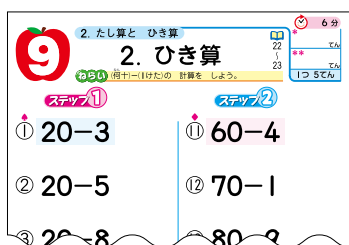
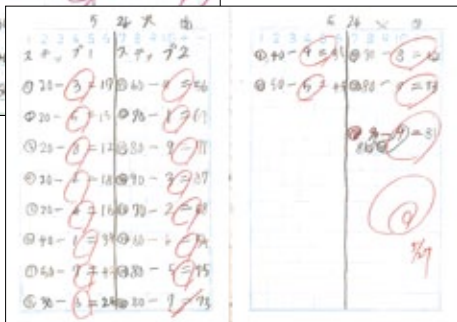
ノートの使用手順は下記の通りです。

- ①ドリルの問題を『らくらくノート』にする。
- ②ドリルをノートにはさんで提出する。
- ③全問正解（間違えたら直して再提出）したら、ドリルの右上\*印の所に日付を書き込んでもらう。（1回目の合格）
- ④数日後に、別の算数ノート（17マスを使用）に同じようにドリルの問題をして提出する。  
（注：図表や図形の問題の場合に限っては、ドリルをコピーしたものをノートに貼って取り組ませました。）
- ⑤全問正解したら、\*\*印の所に日付を書き込んでもらう。（2回目の合格）

▼1回目はらくらくノートで



▼2回目を17マスノートに



\*に1回目, \*\*に2回目に合格した日を書く。

基本的に家庭学習として行いましたが、自習の時間や課題が早く終わった時などにも取り組みました。別のノートに再度書かせることで、内容理解と書き方の両方の定着を図ったのです。子どもたちの使用しているノートとマス目の数が違うために戸惑う子もいましたが、むしろ、違うからこそ書き方をマスターできているかが確かめられたと言えるかもしれません。

#### 4 子どものやる気を引き出す

やり終えた所を把握するために、ドリルの両面ページが終わると、角の部分飾り切りばさみでカットしていたのですが、これが子どもにとっては達成感や励みになったようでした。そ

こで、後期は『らくらくノート』の角にも飾り切りを入れるようにしました。わずかなことですが、間違い直しをやり残す子どもが減りました。

付属のシールは、ドリルをやり終えた子どもから順に表紙に貼ってあげるようにしました。いくら書きよいノートでも、算数が苦手な子どもにとって、くり返し練習は苦痛を伴います。かわいらしい賞状シールは、嬉しいごほうびとなっています。



両面できたら角をカット

ドリルをやり終えたら表紙に賞状シールを貼る。

#### 5 終わりに

このように、日々の基礎学力作りに大いに役立っている『らくらくノート』ですが、一つ難を言えば、普通のノートより値がはることで。保護者の負担を考えると、簡単には「どの学年でも採用」とは言いづらいところがあります。10ミリマスノートへ移行する第2・3学年あたりで、まず取り組んでみることをお勧めします。早い段階で活用することにより、授業ノートのまとめ方にも生かしやすいからです。